

平成30年度 大成女子高等学校自己評価表

教育方針	私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。 校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。 生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。
教育目標	多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成。 良識ある母親として地域社会に融和できる女性の育成。
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・女子に特化したキャリア教育を展開するべく、全職員でその実現に取り組む。 ・高大接続改革の動向に注意を払い、大きな変化に対応できるよう準備を怠らない。本年度1学年から始まるeポートフォリオへの記録活動は全職員で支援する。 ・本校教育の根幹を成す小笠原流礼法を常に念頭に置いて立ち居振る舞い、生徒たちの見本となるべく精進する。 ・授業・学習支援クラウドサービス（Classi）、教務管理システム（スクールマスターZeus）の使用方法を習得し、ICTの利活用に積極的に取り組む。

校務分掌	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合評価	今後の課題
普通科	CAREER HANDBOOKを活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン科で実施している内容を担任と共有し、生徒へ声かけを行い、HR等で活用する。また、2、3年生とも内容を共有し、できることを実践する。	A	A	キャリアデザインで実施されている授業について、担当以外の先生方にも興味を持ってもらうように、内容を公開していくことが重要である。また、ボランティアについては、興味のある特定の生徒だけでなく、多くの生徒が関われるような方法を今後検討する必要がある。
	生徒自身がキャリアを考える機会として、校外での活動や地域社会で活動する機会を増やす。	多くのボランティアを紹介したり、セルフインターンシップなどへの取り組みを促す。	A		
家政科	茨城県家庭部会事業に積極的に参加し、本校の活動をアピールするとともに、各事業を成功させる。（いばらきものづくり教育フェア、「県政広報コーナー」への展示） 家庭クラブ活動の内容を周知徹底し、活性化させる。	それぞれの課題を把握し、生徒の多様な能力・適正、興味・関心などに応じて楽しく学べる学習環境を作る。 家庭クラブの年間計画に基づき、生徒へ助言指導を行う。	B	A	茨城県家庭部会事業には、積極的に参加し、協力しながら本校のアピールが出来た。家庭クラブ活動は活発な活動ができていないので、来年度は活動内容を再度見直し、活発で積極的活動が行えるよう検討していく。C.H.E.部は、世界大会出場を獲得した。コンテストでは、各種コンテストに応募し、4名が受賞した。引き続き、指導者の研鑽に務めていく。
	C.H.E.部の活性化をはかる。（「着装」部門で世界大会出場権獲得）	生徒が活動に集中して取り組めるよう、練習環境を整え、生徒の活躍を校内外へ発信していく。	A		
看護科（高校）	自学自習できる生徒の育成を目指す。 朝学習、家庭学習時間の確保（平日2時間、休日3時間以上）をする。	学習への意識づけを行う。 宿題の頻出・確実な確認をする。 キャリア手帳を活用しPDCAサイクルの定着を図る。（週1回の確認）	B	A	朝学習や宿題への取り組みについては担任が生徒の状況を確認しながら進めていくことができてきている。そのため宿題の頻出ではなく重なりや短期間での取り組みなどの調整を図っている。キャリア手帳の利用が定着してきており学習時間の確認はスムーズに行えてきていることからPDCAサイクルをさらに意識した指導を図る。 生徒指導・進路変更は目標値内であったが、できるだけ進路変更者がないように家庭との連携をもとに丁寧な指導が必要である。
	生徒指導・進路変更の生徒をなくす。 （生徒指導・進路変更数共に年度当初在籍数の10%以下とする。）	生徒・家庭・学校間の連絡を密にする。 報告・連絡・相談の習慣を定着する。 学期ごとに生徒心得を確認する。 長期休暇中、ボランティア活動に参加する。 生活指導は繰り返し行う。	A		
看護科（専攻科）	30年度修業生全員の看護師国家試験合格を目指す。	過去5年の国家試験問題を完全に実施する。 自己学習・グループ学習を促進する。 成績低迷者への個別指導を強化する。 校外・校内模試結果を分析する。	B	A	過去の問題の実施や模擬試験の分析により成績低迷者への個別指導の強化を実施した。グループ学習と並行することから課題の量や内容の工夫をする必要があった。 県内就職率93.1%、実習病院への就職率85.2%と目標は達成された。しかし、実習病院への就職はバランスのとれたものになるよう意図的な就職指導が必要である。そのためにも卒業生との懇親会を進めていく。
	地域に貢献する看護師の養成を目指す。 （県内就職率90%以上、内80%以上は実習病院への就職とする。）	5月までに実習病院関係の就職・奨学金説明会を開催する。 実習病院入職卒業生との懇談会を実施する。	A		
教務部	本校教育目標・努力目標の達成のために、教育活動および校務の円滑な運営を目指す	・単位時数に見合う授業時数を90%確保する。 ・行事の特定日への偏りを100%解消する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数90%確保は達成した。次年度も継続したい。 ・行事の重複防止、試験日程2週間前発表も100%を達成したが、実施願いの提出が遅く慌てたこともあった。次年度は、実施願の早期提出を促したい。 ・スクールマスターを導入して2年が過ぎ、使い方も浸透してきた。年度末の処理で問題が発生してしまったが、すぐに対処できた。今後は、学年でスクールマスターの担当者をつけ、問題が起きないようにしたい。
		・行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。 ・試験日程2週間前発表実施 100%	A		
		・スクールマスターの使い方を周知させる ・各種用度品・消耗品等の節約	B		
学習指導部	進路決定のために必要な学力として、実力診断テスト、実力判定テストにおいて、上位ランク（B3以上）を増やし、下位ランク（D2以下）を減らす。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の目標に設定してもらう ・資料提供などを行い、事前事後指導の充実を図る。 ・外部テストの分析会を企画、実施する。 ・成績奨励学生指導の充実を図る。 ・データを活用し、先生方がきめ細かな指導ができるよう情報を提供する。 ・Classi、学習支援センターの活用を促す工夫を考案し、実践する。 	A	A	成績について、上位ランクが増えた学科学年は2年普通科、下降者が増えた学科学年は2年家政科を除く学年学科である。上位者が増えた教科は国語は全学科・学年、全教科で下位者が増えた。学力の開きが全学科、全学年で生じた結果となった。学習時間についても普通科成績上位者で増えた生徒がいる一方、多くの生徒の学習時間が減少し、成績に反映された。HR担任、教科担任が効果的な指導ができるよう、学習指導部としてさらなる工夫が必要である。ICT活用については、ICT担当教員の1/3程度が研究授業を行った。研究授業としては実施しなかったが、外国語科、理科、キャリアデザイン科を中心にICT活用が進んでいる。今年度末には通信環境の改善が図られ、来年度には常勤教員のタブレット端末購入が決定したことから、ハード面での環境は整う。次年度は研修、教員同士の勉強会などを行い、ICT活用を促進したい。新聞は一部のクラスではSHR、終礼などで活用されるに留まった。
	家庭学習時間を各学年前年度3月末の状況より、改善させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法オリエンテーションを実施し、学習方法を理解させる。 ・各教科と連携し、宿題などを出すことで自己学習を促す。 ・NIE、コロキウムを充実させ、キャリアデザイン科、進路指導部と連携して目標を明確にさせることで、自ら学ぶ意欲を育てる。 ・Classiの学習時間調査などを活用し、学習を促す。 	B		
	ICTを活用した授業を研究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科のICT担当を中心に研究授業を行い、教科でのICT活用を促す。 ・外部の研究会へ積極的に参加する。 	A		
	HR、授業での新聞の活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を使った活動をクラスの実情に合わせて実施できるよう、提案する。 ・新聞の読み方講座を実施する。 	A		

入試広報部	学校の評価向上につなげる、受験制度につなげる。	本校受験の評価向上と利用価値を周知する。	B	B	大成女子の受験機会の存在価値を定着させることができている。地域のニーズと受験制度の広報内容を一致させていくことに気を配らなければならない。大成女子の認知度を増やすことが必要である。広報活動は募集対象・地域ともに他校に比べてまだまだ十分な内容になっていない。さらなる努力が必要になる。生徒・保護者対象の説明会や進学フェアなどの機会によりわかりやすい説明が大切になる。	
	大成の長所を伝え、生徒数増につなげて本学全体の発展に努める。	普通科・家政科・看護科の3学科の強みを活かす。	B			
	普通科・家政科・看護科のタブレット端末利用などの本校教育の各分野の特長を広く広報する。	さまざまな行事や広報誌により、中学校・受験生との接点を多くする。	B			
厚生部	生徒の健康の保持増進を図る。 職員の健康診断について結果の改善に努める。	「well being」(保健日より教員版)を年2回発行し、健康診断の結果について改善を促す。 生徒の検診結果を通知文等を利用し、保護者に知らせる。またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。熱中症やインフルエンザなど早めに対策を取るよう促す。	B	A	保健室から保護者へ生徒の検診結果等を知らせる連絡手段として、Classiの活用を検討し、今年度以上の病院受診や治療を勧めていきたい。	
	学校生活の環境を整える。	年2回、廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。 節電に努める。節電に協力してもらえるように保健便りやClassi等を利用し呼びかける。 毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。	A			次年度は、毎日の清掃のチェックポイントのマニュアルを作成し提示できるようにしていきたい。
特別活動部	・ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。	①HRや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回はみんなの前で発表する。全校集会は、今年は部活動の発表を重点的に行うが、部活以外の団体にも発表の機会を提供する。 ②奉仕活動の意義を理解させ、学習指導部と進路指導部と協力し、50%以上の生徒をボランティア活動に参加させる。	B	A	①全校集会は、表彰中心であった。来年度、国体が終わるまでこの形で継続していきたい。 ②ボランティア活動に関しては、今年度は進路指導部中心に募集の呼びかけが行われたが、次年度は特別活動部でも呼びかけを行い多くの生徒が積極的に行えるよう取り組みたい。	
	・学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	①撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。 ②学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し所属感や連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。	A			①クラスの団結はダンスや出し物で深められたという92%の数字が出たので、今後も継続していきたい。 ②生徒満足度は93.8%であった。男子の入場許可やiPad使用の方法を模索して、より満足度の高い撫子祭にしていきたい。
	・部活動を通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。	①生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。 ②部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。 ③ブログなどを通じて、各部活動の様子を積極的に発信することを、各部活動に促す。	B			①部活動加入率は59%であったが、ホワイトボードに部活の情報を常に掲示し、更新し続けることで、中途入部の人数が増えた。今後も継続していきたい。 ②主に文化部で地域とのコラボレーションが増えた。 ③ブログへの情報掲載を促し、動画の日常的アップロードも検討していきたい。
進路指導部	卒業時の進路決定率100%、 中でも大学、短大進学者を50%以上にする (今年度は97名以上) 姉妹校である茨城女子短大への積極的な進学を促す。	生徒との面談や3者面談を通して、進路希望を把握し、適切な助言を与える。 専門学校希望者には、進路ガイダンスやHR等で慎重な進路選択を促す。 校外ガイダンスを全生徒へ告知し、積極的な参加を促す。 短大広報スタッフとの連携を強化し、内部特別入試説明会やコロナウィルスの派遣を呼びかける	A	A	大学短大進学者は54%で、目標を超えることができた。特に学校設定教科にキャリアデザイン科を立ち上げたこともあり、茨城女子短大保育科への進学者はここ数年で最高であった。今後は、専門学校希望者をもう少し短大へとシフトさせること、また茨城女子短大への進学数のキープ、および表現文化学科への誘導が課題である。 ポートフォリオ作成に関しては、まだ手探りの状態である。情報科と協力しながら、入力する時間の確保は整っているため、今後は入力した情報を担任と共有すること、また進学先への提出資料として体裁を整えさせていくことが重要であると考えている。	
	就職課外を通し、就職への意識を高めると同時に、筆記試験と面接試験対策を行い、就職希望者の全員内定を目指す。 就職希望の生徒の意識改革(極力ハローワークを通した就職活動)を行うように勧める。	進路ガイダンスで、就職希望者に対し個別面接指導や筆記試験対策を行う。 高校新卒ハローワーク担当者に来校してもらい、生徒の個別相談や就職情報提供を行ってもらう。特に家政科生徒が希望する職種について、多くの情報を頂けるように働きかける。	A			
	生徒の希望進路実現をサポートする活動を企画、運営する。	早期進路決定に向け、上級学校の情報収集を目的として、進路関連行事を計画的に行う。 3年 5月に進路ガイダンス、7月に志望理由・自己PR作成ガイダンスを企画する。 2年 5月に上級学校見学会、2月に進路ガイダンスを実施する。 1年 2月に進路職業ガイダンスを実施する。 その他、HR等で進路講話を行う。	A			
	大学入試制度改革に伴うe-ポートフォリオの運用方法を確立していく。	他校の先進事例を把握し、適切な時期に活動を振り返る時間を確保する。(1学年) 他の先生方からも、さらに良い運用方法や事例について意見を募る。	B			
生徒指導部	1. 基本的な生活習慣の育成 ・正しい制服の着用および容姿を整えさせる ・正しい言葉遣い、挨拶の徹底化 ・正しい学習態度を身につける	①学年主任及び教員による立哨指導での注意喚起 ②定期的な校内・校外巡視などによる指導 ③礼法指導及び授業の開始・終了時の挨拶による指導 ④制服セミナーによる制服着用の注意と指導をおこなう ⑤各教員が廊下などでの乱れた服装の生徒の指導	A	A	合同HRでの説諭、毎朝の学年主任などの立哨により、極端に服装の乱れている生徒は見かけなくなった。時々見かける若干服装の乱れている生徒への声かけが少ないように感じられるので、次年度は積極的に指導部からアナウンスしていく。また指導部で学期(月1回)ごとに付近交差点付近での立哨を実施したいと考えている。	
	2. 情報モラルの育成 ・SNS関連のトラブルの発生を防止する	①情報担当教諭との連携をとり、情報の授業が中心となるが、そればかりではなく関連する授業すべてを通して情報モラル指導をおこなう。 ②茨城県メディア教育指導員・警察などによる講話指導等を通して注意を呼びかける(危機感の育成を図る)。 ③HR、礼法さらにはさまざまな活動を通して、コミュニケーション能力と他人への思い遣りの心の育成を図る。	A			指導部からことあるごとに機会をとらえて実施してきた。次年度何か新しい形を考えて進めていけたらと思う。次年度へ向けての検討課題としたい。
	3. 教員相互の連携を図り指導にあたる ・学年間の連携にとどまらず、教員相互の密な関係を構築する	連携を図るため、情報の共有化を図る。	A			学年内での情報共有は十分図られていると思われる。各学年間の情報の共有のために全教員の共通理解を図るための何かを実施することを検討したい。
メディア総務部	入試広報部・父母の会事務局・同窓会事務局と連携し、校内情報を在校生、保護者、中学生、地域、同窓生等に広く伝え、学校の評価向上に繋げる。 入試広報部・特別活動部と連携しながら戦略的に学校のイメージづくり、受験者および入学者を増やす。	高校webサイト内の掲載内容を充実させる。 ToSay!ブログの更新を週4回以上行う。	A	A	本校webサイトの情報を、ほぼ最新に変更することができた。ブログは、平日はほぼ毎日更新できているので、今後も継続していく。 今年度は工事の関係で懸垂幕を掲示できない期間もあったが、年間を通して6回の掲示ができた。今後も継続していく。	

		体育館壁面の懸垂幕を年間3回更新する。また、道路沿いの横型懸垂幕を活用し、年間を通して常に掲示できるようにする。	A	継続している。 本校webページでの最新情報の発信とともに、他のメディアを使った情報発信を、臨機応変に行うことが今後の課題である。
図書館部	(1) 図書室を積極的に利用させ、読書の習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 貸出総数維持・向上のため、利用しやすい図書館運営を行う。 年間を通して館内の衛生管理に努める。 各教科や校務分掌等への協力を要請し、授業や課外活動での利用を促す。 職員・生徒向けの新刊案内を定期的に発行し、利用促進を促す。 進路選択に役立つ図書館をめざす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき、円滑な図書館運営ができた。 「進路指導に役立つ学校図書館」の充実のため、学習指導部・進路指導部・各教科との連携を強化したことで、生徒や教員の求める資料提供ができた。 生徒図書委員会の活動も計画通りに実行できた。委員生徒同士の学年を超えたコミュニケーションが取れており、各作業班の生徒が自ら考えて仕事の内容の幅を広げていくことができるようになった。 蔵書管理システムの本格稼働には至らなかった。計画廃棄と新書の受入業務、レファレンス業務の繁忙が原因と思われる。稼働に向けたバーコード貼付作業には時間を要するが、次年度中に稼働させたい。
	(2) 生徒図書委員会の運営を充実・発展させる。	<ul style="list-style-type: none"> 校外における生徒図書委員研修会や公的機関主催の研修会へ参加させる。 司書研修会・教員対象の研修会に参加し、学校図書館の運営に役立てる。 図書費を有効活用できるよう、選書検討会議を毎月実施する。 他校生徒や県立図書館職員との交歓を通し、活動の幅を広げる。 定期的な読書会やビブリオバトルなど生徒向けのイベントを開催する。 	A	
	(3) 蔵書管理システムの移行を開始し、円滑に運営する。	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書管理システムの導入作業を進める。 5カ年廃棄計画に続き、定期廃棄と看護図書室の蔵書廃棄に移行する。 	B	
1学年	1 基本的な生活習慣を身につけさせ、規律ある生活をさせる。 ・安易な欠席、遅刻、早退をなくさせ、年間5回以上の遅刻者数を10名以下にする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の開始・終了時には服装を整え、息を合わせて礼ができるよう指導を徹底する。 教室の外ですれ違った際、挨拶（会釈）ができるよう指導する。 相手の人格や立場を尊重し、その場にふさわしい言葉遣いができるよう指導する。 身の回りの私物をきちんと管理・整頓させ、学習環境の美化に努めさせる。 遅刻カードを活用し、各自の生活改善に役立たせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 大部分の生徒が規律ある生活を送ることができた。一部に制服を正しく着用せず注意を受ける者もいたが、校内で制服をひどく着崩す者はいなかった。校外でも、正しい服装でいられるようにすることが課題である。 年間5回以上遅刻指導は数値目標を達成することができた。体調不良、寝坊等の遅刻が多く、時間を守る意識をさらに浸透させることが今後の課題である。 欠席が続く生徒がおり、教育相談との連携を密にしながら対応したが、学年途中での進路変更者が出てしまった。支援を要するような問題を抱える生徒の対応が今後の課題である。 進路ガイダンスやインターンシップが自分の将来を考えるきっかけとなった。上級学校の見学を行う者もおり、進路に対する意識は比較的高めることができた。 スタディサポートのGTZで、Dランクの生徒が最終的に増えてしまった。学習する習慣をつけさせるのが大きな課題になる。 国語テストの年間成績優秀者は、各担任が課題等を出して目標数値に近い結果を残すことができたが、英単語テストは目標値を下回る結果になってしまった。次年度、頑張らせたい。
	2 基礎学力を向上させるとともに、目標をもった生活をさせる。 ・スタディサポートのGTZで、Dランクに位置する生徒を50%以上減らす。 ・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を、学年人数40%（約80名）以上にする。 ・各種検定試験の受験を促し、漢検・英検・数検・秘書検定3級資格取得者を学年人数の40%（約80名）を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に真剣に取り組ませ、予習復習の学習習慣を定着させる。 国語テスト、英単語テストの課題に毎日取り組ませ、家庭学習の習慣及び基礎学力の向上を図る。 上級学校の見学や各種ガイダンスへ参加し、進路意識を高めさせる。 インターンシップへの参加を通して、進路に対する適性を確認させる。 スタディサポートを活用して、生活状況や学習状況を振り返り、自身の将来像を描かせる。 	B	
2学年	1 基本的な生活習慣を身につけさせ、中堅学年としての自覚と責任を育てる。 ○学校生活・社会生活における規律の遵守、健康の管理と維持、時間の遵守と挨拶の励行 ○身だしなみを整える、家庭の中での役割を果たす。 ○安易な欠席・遅刻・早退をなくすことを基本課題として取り組み、年間5回以上の遅刻者を10名以下にする。 ・HANDBOOKを活用した時間管理を通して学習時間を確保させ、成績向上につなげる。 ・家庭において自己の役割を決め、家族の一員としてその占める位置を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 服装・髪型等については、立哨や各ホームルームで継続的に指導を行い、学年集会等で確認をする。 欠席・遅刻・早退が多い者は、保護者と連絡を取り合い、個別指導をする。 教科担任と連絡を密にとり、SHRや授業等で生徒の変化（言動、服装など）を見逃さないようにする。 家庭における自己の役割を決め、実践する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導においては、担任を中心に毎日丁寧な指導を行った。今後も継続的に注意喚起が必要である。 遅刻や欠席者の総数は増加してしまっていたが、下半期以降に進路決定を意識し出したことで、生徒の意識も変化し、生活が安定した。 家庭との連携を密にすることができ、保護者の理解と協力が得られた。学年団の情報共有ができており、学年全体で指導に当たることができた。 「手帳の活用と時間管理」は生徒の自主性に任せ、経過観察中である。「新聞活用」が十分ではないので、進路学習に役立たせるよう指導が必要である。 学習支援センターでの学習が基礎学力の定着に繋がるよう、生徒への働きかけを強化する。 各種検定試験に向けて計画的に学習し、受験する者も多く、月例の国語・英単語テストへの熱心な取り組みも見られた。 来年度は高校生活最後の年なので、向上心を持って学習に取り組ませたい。年度末の進路説明会などの進路学習を通して、将来について具体的に考える意識も高まり、春期休業中のオープンキャンパスへの参加が増えている。 2年次最大行事の研修旅行において、概ね規則と時間を守り、協力して行動することができた。生徒と教員間のコミュニケーションが取れており、生徒達も理解し、納得して行動できたと思う。 文化祭や3年生を送る会では、生徒一人ひとりに役割を持たせ、達成感を味わわせることができた。
	2 主体的学習態度の育成と基礎学力の向上を図る。 ○家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底 ○各種検定試験や校外模擬試験などへの積極的参加 ・英単語テスト、国語テストの各成績優秀者数を学年人数の40%をめざす。 ・年間の各種検定試験3級以上の資格取得者を学年人数の40%をめざす。 ・新聞を用いた学習を行い、進路への関心を高め、文章力の向上をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 週ごとに家庭学習の予定を立てさせ、起床と就寝時刻の記録を通して時間管理の重要性を意識させる。また、新聞記事を用いた課題を出し、書かせた感想などを学年だよりなどに公開するなどして、文章力向上のモチベーション維持をはかりながら学習させる。 学習支援センターの活用を促し、不得意教科の克服を図る。 進路説明会、進路ガイダンス、上級学校の見学会への積極的参加を促し、面接指導を通して進路意識を高める。 各種検定試験や校外模擬試験の受験を促し、準備対策をさせて合格率を高める。 	B	
	3 学校行事や部活動、ボランティア活動への積極的参加を促し、連帯感の高揚を図るとともに、一人ひとりに達成感を味わわせる。	<ul style="list-style-type: none"> 各行事の活動のねらいを意識させ、一人ひとりに役割を持たせる。 SHRや終礼、集会等で聞く態度を指導し、他者の考えを積極的に受け入れることができるようにさせる。 集団中でのルール遵守を徹底させ、我慢の大切さを身につけさせる。 一つのことを学年全員で協力して成し遂げる。 	A	
3学年	1 学校行事やさまざまな活動を通し、最高学年としての自覚と責任を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> スポーツフェスティバル・文化祭などの学校行事に全員で参加し、それぞれに役割を持って取り組ませることで連帯感や達成感を体得させる。 生徒会、部活動、委員会活動などを通し、上に立つ者としてその自覚と責任感を養わせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな行事に、HR委員や各係の責任者のもとで、各々の生徒が役割を持ち活動することができた。役割の元に活動することによりそれぞれの生徒に積極性、責任感が生まれ、その結果、実りある学習へつなげることができた。 基本的な生活習慣の徹底に力を入れてきたが、遅刻5回以上の生徒の数は昨年よりは数を減らしたものの目標には届かず、いろいろな面で指導の方法を検討しなければならぬと感じた。生徒の心を育てるにはどのような手立てがあるのかを学ばなければならない。 進路については、進路未決定者5名ほど出てしまい、進路に関して考え方の未熟さを感じた。大学短大の進学率は目標の50%を超えた。家政科からの大学進
	2 集団生活の中で規律ある態度を養い、社会で通用する人間性を育む。 (挨拶をする、言葉遣いを丁寧にする、時間を守る、整理整頓に気を配るなど、当たり前なことを身につけさせる。中でも、遅刻に関しては年間5回以上の者を10名以内に作る。) (制服を正しく着用し、身だしなみを整える。)	<ul style="list-style-type: none"> 校則の周知徹底を図り、遵守できない者には個別に面談を行う。 個人面談を活用して生徒一人ひとりの生活状態を把握し、規則正しい生活をするための助言をする。 基本的な生活習慣や態度を身につけることの重要性を、SHRや合同HR、集会など機会ある毎に伝える。 欠席、遅刻の多い生徒や生活の乱れが目立つ生徒には保護者に連絡をとりその対応をする。 	A	

	3 学力の向上をはかり、進路決定を実現させる。 ・スタディーサポートテストのGTZのDゾーンからCゾーンへの底上げを図る。 ・各校内一斉テストの成績優秀者数70名を目指す。 ・進路決定率100%、大学短大進学率を50%以上を目指す。	・学習課題に毎日取り組ませ、基礎学力の向上と家庭学習の徹底をはかる。 ・生徒の進路希望を把握するために、少なくとも各学期1回の個人面談を行う。 ・推薦・AO入試や就職試験の面接対策として、面接練習を学年の教員全員で行う。 ・進路指導部と連携し進路に関する最新情報の入手に努め、生徒に情報提供する。 ・進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の向上を図る。	B	学者の数の増えたこともプラスになっている。今後もこの状態が続いて欲しい。学習習慣では、日々の学習の定着していない生徒も多く、早くから将来像を描き、そのためには何が必要かを見つけ、実行する力をつけたかった。
国語	基礎的な学力を充実させ、表現力・理解力を養わせる。	授業を通して、読む・書く・聞く・話すの学習活動を実践する。	A	語彙力をつけるために国語テストを実施し、宿題にしたりなどして取り組ませてきたが、機械的に書き、提出することで満足感を覚える生徒が多かった。自学自習を身につけさせたい。表現力・理解力を養わせるといふ点に於いては、学習活動が不足していた。今後は教科内の研修を充実させて、教科指導の工夫を計っていききたい。
	生徒の学力にあった系統的な指導をする。	学年ごとの指導内容を精査する。また、学習課題ノートを活用して単元ごとの内容の理解を把握する。	A	
	進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して国語力の向上を図る。	国語テスト等の単元ごとの課題提出、また小テストの実施を通して、自学自習を習慣化する。	A	
地歴公民	時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。	A	1. 観点別評価の導入が学習意欲の向上につながるよう、工夫が必要である。 2. 次年度に向け、iPadの効果的な利用法を検討する必要がある。
	政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。	A	
数学	学習習慣を定着させる。	1年生の初期指導における学習方法を継続する。 課題を与え、その提出を徹底させる。 定期試験の成績が不十分な生徒は定期的に学習支援センターを利用するように促す。	B	基礎学習の定着を図るため、次年度は、課題・小テストを改善する。 数学が苦手な生徒に学習支援センターの利用を促し、連携を取りながら克服させていきたい。
	基礎学力の向上を図る。	1年普通科は習熟度別でグループの学力に合わせた授業を行う。 定期試験前の小テストの学習や定期試験後の課題の提出を徹底させる。また学習の理解度を把握し、個々に応じて指導を行う。	A	
理科	論理的思考力を向上させ、科学的な興味関心を高めるとともに、実験を通して理解を深めさせる。	・単元毎、または章毎に生徒実験を実施し、実験後は必ずレポートを提出させる。 ・日常生活で利用されているものを教材として多く取り上げ、必要に応じて演示実験やICTを活用する。	A	十分な実験を行うことはできなかったが、実験レポートは必ず課し、論理的思考が育成できるように内容について工夫した。シラバスに沿って予定通り教科書の内容については終了でき、必要に応じて試験前などを中心に個別指導も行うことができた。演示実験は各先生方で積極的に行った。 教室のインターネット環境が改善し、各教員ともPC、タブレット端末を使い工夫していた。日常生活と関連した教材は活用することはできており、問題演習・小テストも適宜実施できた。
	シラバスに沿って予定通りに教科書の内容を指導し、問題演習を通し、基礎的知識の定着を図る。	必要に応じて問題演習等の宿題を課し、定期試験の他に、小テストなどを行う、また、必要に応じて個別指導を行う。	A	
保健体育	運動能力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わう。また体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身につけさせ、社会生活における健康、安全に理解を深め自らに健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につけさせる。	個々の運動能力に合わせて到達技能を設定し、全員がクリア出来るように指導する。 種目の選択とともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。 健康で安全な生活習慣を確立させる。	A A	縄跳びなどは合格する人数が増えてきているが、合格した者にさらに上のレベルを目指すことが課題である。また、運動能力が低い生徒にどうアプローチするか今後の課題である。
	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	音楽では鑑賞に加えて楽典や声楽のテストを実施する。美術・書道では基礎的な表現技法を習得させ、鑑賞能力を養うことで創作活動に取り組ませる。以上の活動を通して表現力と鑑賞力の向上をめざす。 文化祭などの学校行事における発表や、校外の展覧会への出品を通して積極的に表現活動へ挑戦させる。	A B	
外国語	ライティング力を中心に英語表現力向上を図る	日記活動による「書くこと」の継続的指導をする。	A	年間を通して、学科として協力して指導ができた。評定にもきちんと反映できている。今後、各学級診断テストの結果につながるように継続して指導していく必要がある。 英語での指導はクラス状況により環境が大きく異なり、すべて同じにはできていない。指導方法の工夫は必要である。 iPadを用いた英語の授業については、辞書機能の利用を中心にする。さまざまな付属機能があるため、その利用を具体化する。また、1年生普通科が行っている日記活動を来年度、iPadを利用した日記活動に移行することを検討中である。
	基礎力の充実を目的に語彙力の向上を図る	英単語テストを実施する。	B	
	英語による授業展開方法とタブレット端末の活用方法の研究開発をする。	英語で展開する英語授業の実践とタブレット端末の活用による学力と学習態度の変化の観察をする。	B	
家庭	各学年、選択コースにおいて、目標とする技術検定試験を100%合格とする。	検定の課題と評価について教員間で共有し、研鑽を積む。実習については、学習環境を整えとともに、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。	A	技術検定については、目標は達成できているが、個別指導が多く、指導上の工夫が必要で今後の課題となる。 本校の活動は、積極的に家庭部会事業に参加し、外部へ発信している。家庭クラブの活動を生徒へ周知し、今後活性化させていく。家庭科関連のコンクール・コンテストには、積極的に応募しているが、入賞は4部門だったので、個別指導をし入賞数が増えるように教員も研鑽を積んでいく。
	茨城県家庭部会事業に積極的に参加し、本校の活動をアピールするとともに、各事業を成功させる。(いばらきものづくり教育フェア、「県政広報コーナー」への展示) 家庭クラブ活動の内容を周知徹底し、活性化させる。	それぞれの課題を把握し、生徒の多様な能力・適正、興味・関心などに応じて楽しく学べる学習環境を作る。 家庭クラブの年間計画に基づき、生徒へ助言指導を行う。	A	
	家庭科関連のコンクール・コンテストで10部門の入賞をする。	生徒自身の課題において、計画・実践・評価・改善の各プロセスにおける指導助言を十分に行う。	B	
	自分に必要な情報を正しく読み取り、発信する能力を育てるとともに、適切なコンピュータリテラシーを身につけ、情報伝達の方法と情報発信の危険性について理解する。	学習支援クラウドサービス「Classi」を利用してデータを蓄積する。	A	Classiへのログイン、内容確認は、ある程度習慣づけられてきたと感じる。反面、配信頻度が少ないため、確認してもすぐに閉じてしまう。関係教員の配信頻度

情報		SNSなどネットトラブルに巻き込まれないための知識が身に付くように、実技を交えた情報モラル指導を徹底する。	A	A	を高めていくことが今後の課題である。 総務省や法務省が作成したYouTube動画を教材にしな がら、SNSを利用している人の誰にでも被害に遭う可 能性があることを認識させる授業ができた。反面、他 人事のような意識でいる生徒がまだ多いので、自身の 問題として意識させることが今後の課題である。
看護	基礎的な看護技術の定着を目指す。 (放課後の実習室利用率を60%以上に維持する。また、主要 基礎技術の確認試験の合格率を100%とする)	教員による放課後実技指導を徹底する。 実習室使用許可願の管理・集計をする。 主要基礎技術(ベッドメイキング・全身清拭・足浴・バイタルサイン測 定)の確認試験および再試験を実施する。	A	A	実習室の利用率は72.4%であり昨年を上回る。確認試 験は100%合格と看護技術の習得への生徒の意識は向上 していると思われる。しかし教員の関わりが十分でな い。今後は来年度からのipadの導入に伴い効果的な活 用方法を検討していきたい。
礼法	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わ りを円滑にできる生徒を育成する。	礼法研修に積極的に参加し、家庭科教員の意識向上をはかる。学校生 活の基本である始業の礼、終業の礼の意味を理解させる。また、お客 様や先生方に対する挨拶など、日常生活での「礼」を徹底させる。	A	A	夏休みの研修に参加し、家庭科教員の意識は上がっ た。しかし、指導力がまだ足りない部分があるので、 今後も定期的に研修を行いたい。また、家庭科研修で 指導方法などについても協議し、さらに、授業内容に ついての充実を図る。
キャリア デザイン	キャリアⅡB(3年)のプログラムを実践・修正し、3年生のプ ログラムを完成させる。 キャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・ 学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に 表現できるよう、サポートを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 外部団体との打合わせは時間的余裕を持って、綿密に行う。 キャリアデザイン科内で情報共有を十分に行い、プログラムの完成 に向けて協力する。 2年生も含めて、次年度に向けてのプログラム修正検討を早期に行 う。 <ul style="list-style-type: none"> 推薦、AO入試に向けて、進路指導部と連携し、教科全員でフォロー を行う。 	A	A	キャリアデザインⅡBのプログラムは完成し、生徒た ちの振り返りからも1期制として十分な学習活動がで きたと自負する。次年度以降は、改善を図りながら、 地域との連携、メディアへの露出も増やしたい。一方 で、キャリアデザインでの学習内容を、志願理由書作 成指導、面接指導などに活用しきれていない面があ る。学校全体での学習内容の共有について工夫が必要 である。

平成30年度 大成女子高等学校自己評価表

教育方針	<p>私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。</p> <p>校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。</p> <p>生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。</p>
教育目標	<p>多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成。</p> <p>良識ある母親として地域社会に融和できる女性の育成。</p>
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 女子に特化したキャリア教育を展開するべく、全職員でその実現に取り組む。 高大接続改革の動向に注意を払い、大きな変化に対応できるよう準備を怠らない。本年度1学年から始まるeポートフォリオへの記録活動は全職員で支援する。 本校教育の根幹を成す小笠原流礼法を常に念頭に置いて立ち居振る舞い、生徒たちの見本となるべく精進する。 授業・学習支援クラウドサービス (Classi) , 教務管理システム (スクールマスターZeus) の使用方法を習得し、ICTの利活用に積極的に取り組む。

校務分掌	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合評価	今後の課題
普通科	CAREER HANDBOOKを活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン科で実施している内容を担任と共有し、生徒へ声がけを行い、HR等で活用する。また、2、3年生とも内容を共有し、できることを実践する。	A	A	キャリアデザインで実施されている授業について、担当以外の先生方にも興味を持ってもらうように、内容を公開していくことが重要である。また、ボランティアについては、同じ生徒が何回も応募しているため、もっと多くの生徒が関わられるように仕掛けていくことが必要である。
	生徒自身がキャリアを考える機会として、校外での活動や地域社会で活動する機会を増やす。	多くのボランティアを紹介したり、セルフインターンシップなどへの取り組みを促す。	A		
家政科	茨城県家庭部会事業に積極的に参加し、本校の活動をアピールするとともに、各事業を成功させる。(いばらきものづくり教育フェア、「県政広報コーナー」への展示)	それぞれの課題を把握し、生徒の多様な能力・適正、興味・関心などに応じて楽しく学べる学習環境を作る。家庭クラブの年間計画に基づき、生徒へ助言指導を行う。	B	A	茨城県家庭部会事業には、積極的に参加し、協力しながら本校のアピールが出来た。家庭クラブ活動は、まだ低迷しているため、来年度はさらに活発に活動できるよう、活動内容を再度見直し、課題として検討していく。C.H.E.部は、世界大会出場を獲得した。コンテストでは、各種コンテストに応募し、4名が受賞した。引き続き、指導者の研鑽に務めていく
	家庭クラブ活動の内容を周知徹底し、活性化させる。C.H.E.部の活性化をはかる。(「着装」部門で世界大会出場権獲得)	生徒が活動に集中して取り組めるよう、練習環境を整え、生徒の活躍を校内外へ発信していく。	A		
看護科(高校)	自学自習できる生徒の育成を目指す。朝学習、家庭学習時間の確保(平日2時間、休日3時間以上)をする。	学習への意識づけを行う。宿題の頻出・確実な確認をする。キャリア手帳を活用しPDCAサイクルの定着を図る。(週1回の確認)	B	A	朝学習や宿題への取り組みについては担任が生徒の状況を確認しながら進めていくことができてきている。そのため宿題の頻出ではなく重なりや短期間での取り組みなどの調整を図っている。キャリア手帳の利用が定着して生徒指導・進路変更は目標値内であったが、できるだけ進路変更者がないように家庭との連携をもとに丁寧な指導が必要である。(1年ピアス、染色、2年転学2名、3年染色、進級辞退2名)
	生徒指導・進路変更の生徒をなくす。(生徒指導・進路変更数共に年度当初在籍数の10%以下とする。)	生徒・家庭・学校間の連絡を密にする。報告・連絡・相談の習慣を定着する。学期ごとに生徒心得を確認する。長期休暇中、ボランティア活動に参加する。生活指導は繰り返し行う。	A		
看護科(専攻科)	30年度修業生全員の看護師国家試験合格を目指す。	過去5年の国家試験問題を完全に実施する。自己学習・グループ学習を促進する。成績低迷者への個別指導を強化する。	B	A	5年生は5月、1月といじめに関する生徒指導上の問題からクラス運営の方法の変更があった。そのためグループ学習や個別指導を十分に行ななかつたことがあった。県内就職率93.1%、実習病院への就職率85.2%と目標は達成された。しかし、実習病院への就職はバランスのとれたものになるよう意図的な就職指導が必要である。そのため
	地域に貢献する看護師の養成を目指す。(県内就職率90%以上、内80%以上は実習病院への就職とする。)	5月までに実習病院関係の就職・奨学金説明会を開催する。実習病院入職卒業生との懇談会を実施する。	A		
教務部	本校教育目標・努力目標の達成のために、教育活動および校務の円滑な運営を目指す	・単位時数に見合う授業時数を90%確保する。 ・行事の特定日への偏りを100%解消する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数90%確保は達成した。次年度も継続したい 行事の重複防止、試験日程2週間前発表も100%を達成したが、実施願いの提出が遅く慌てたこともあった。次年度は、実施願の早期提出を促したい。 スクールマスターを導入して2年が過ぎ、使い方も浸透してきたが年度末の処理で間違い起き、すぐに対処した。今後は、学年でスクールマスターの担当者をつけ、間違いの起きないようにしたい。
		・行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。 ・試験日程2週間前発表実施 100%	A		
		・スクールマスターの使い方を周知させる ・各種用度品・消耗品等の節約	B		
学習指導部	進路決定のために必要な学力として、実力診断テスト、実力判定テストにおいて、上位ランク (B3以上)を増やし、下位ランク (D2以下)を減らす。	<ul style="list-style-type: none"> 学年の目標に設定してもらう 資料提供などを行い、事前事後指導の充実を図る。 外部テストの分析会を企画、実施する。 成績奨励学生指導の充実を図る。 データを活用し、先生方がきめ細かな指導ができるよう情報を提供する。 Classi、学習支援センターの活用を促す工夫を考案し、実践する。 	B	B	成績について、上位ランクが増えた学科学年は2年普通科、下降者が増えた学科学年は2年家政科を除く学年学科である。上位者が増えた教科は国語は全学科・学年、全教科で下位者が増えた。学力の開きが全学科、全学年で生じた結果となった。学習時間についても普通科成績上位者で増えた生徒がいる一方、多くの生徒の学習時間が減少し、成績に反映された。HR担任、教科担任が効果的な指導ができるよう、学習指導部としてさらなる工夫が必要である。ICT活用については、ICT担当教員の1/3程度が研究授業を行った。研究授業としては実施しなかったが、外国語科、理科、キャリアデザイン科を中心にICT活用が進んでいる。今年度末には通信環境の改善が図られ、来年度には常勤教員のタブレット端末購入が決定したことから、ハード面での環
	家庭学習時間を各学年前年度3月末の状況より、改善させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習方法オリエンテーションを実施し、学習方法を理解させる。 各教科と連携し、宿題などを出すことで自己学習を促す。 NIE、コロキウムを充実させ、キャリアデザイン科、進路指導部と連携して目標を明確にさせることで、自ら学ぶ意欲を育てる。 Classiの学習時間調査などを活用し、学習を促す。 	B		

	ICTを活用した授業を研究する。	・各教科のICT担当を中心に研究授業を行い、教科でのICT活用を促す。 ・外部の研究会へ積極的に参加する。	B	境は整う。次年度は研修、教員同士の勉強会などを行い、ICT活用を促進したい。新聞は一部のクラスではSHR、終礼などで活用されるに留まった。
	HR、授業での新聞の活用を図る。	・新聞を使った活動をクラスの実情に合わせて実施できるよう、提案する。 ・新聞の読み方講座を実施する。	B	
入試広報部	学校の評価向上につなげる、受験制度につなげる。	本校受験の評価向上と利用価値を周知する。	C	大成女子の存在価値をきちんと定着させていくことが大切になってきている。地域のニーズと広報内容を一致させていくことに気を配らなければならない。 大成女子の認知度を増やすことが必要である。広報活動は他校に比べてまだまだ十分な内容になっていない。さらなる努力が必要になる。 生徒・保護者対象の説明会や進学フェアなどの機会によりわかりやすい説明が大切になる。
	大成の長所を伝え、生徒数増につなげて本学全体の発展に努める。	普通科・家政科・看護科の3学科の強みを活かす。	B	
	普通科・家政科・看護科のタブレット端末利用などの本校教育の各分野の特長を広く広報する。	さまざまな行事や広報誌により、中学校・受験生との接点を多くする。	B	
厚生部	生徒の健康の保持増進を図る。 職員の健康診断について結果の改善に努める。	「well being」(保健だより教員版)を年2回発行し、健康診断の結果について改善を促す。 生徒の検診結果を通知文等を利用し、保護者に知らせる。またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。熱中症やインフルエンザなど早めに対策を取るよう促す。	B	保健室からの連絡手段として、Classiの活用方法の検討。 毎日の清掃のチェックポイントの提示。
	学校生活の環境を整える。	年2回、廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。 節電に努める。節電に協力してもらえるように保健便りやClassi等を利用し呼びかける。 毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。	A	
特別活動部	・ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。	①HRや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回はみんなの前で発表する。全校集会は、今年は部活動の発表を重点的に行うが、部活以外の団体にも発表の機会を提供する。 ②奉仕活動の意義を理解させ、学習指導部と進路指導部と協力し、50%以上の生徒をボランティア活動に参加させる。		①全校集会は、表彰中心であった。来年度、国体が終わるまでのこの形で継続していきたい。 ②ボランティア活動に関してはほぼノータッチであった。申し訳ありません。 ①クラスの団結はダンスや出し物で深められたという92%の数字が出たので、今後も継続していきたい。 ②生徒満足度は93.8%であった。男子の入場許可やiPad使用の方法を模索して、より満足度の高い撫子祭にしていきたい。
	・学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	①撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。 ②学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し所属感や連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。		
	・部活動を通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。	①生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。 ②部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。 ③ブログなどを通じて、各部活動の様子を積極的に発信することを、各部活動に促す。		
進路指導部	卒業時の進路決定率100%、 中でも大学、短大進学者を50%以上にする (今年度は97名以上)	生徒との面談や3者面談を通して、進路希望を把握し、適切な助言を与える。 専門学校希望者には、進路ガイダンスやHR等で慎重な進路選択を促す。 校外ガイダンスを全生徒へ告知し、積極的な参加を促す。	B	大学短大進学者は106名(54%)で、目標を超えることができた。特に茨城女子短大へは35名が進学決定し、ここ数年では最高である。今後は、専門学校希望者をもう少し大学短大へとシフトさせること、また茨城女子短大への進学数のキープ、および表現文化学科への誘導が課題である。 ポートフォリオ作成に関しては、まだ手探りの状態である。情報科と協力しながら、入力する時間の確保は整っているため、今後は入力した情報を担任と共有すること、また進学先への提出資料として体裁を整えさせていくことが重要であると考え。
	姉妹校である茨城女子短大への積極的な進学を促す。	短大広報スタッフとの連携を強化し、内部特別入試説明会やコロキウムでの派遣を呼びかける。	A	
	就職課外を通し、就職への意識を高めると同時に、筆記試験と面接試験対策を行い、就職希望者の全員内定を目指す。	進路ガイダンスで、就職希望者に対し個別面接指導や筆記試験対策を行う。 高校新卒ハローワーク担当者に来校してもらい、生徒の個別相談や就職情報提供を行ってもらおう。特に家政科生徒が希望する職種について、多くの情報を頂けるように働きかける。		
	就職希望の生徒の意識改革(極力ハローワークを通じた就職活動)を行うように勧める。	早期進路決定に向け、上級学校の情報収集を目的として、進路関連行事を計画的に行う。 3年 5月に進路ガイダンス、7月に志望理由・自己PR作成ガイダンスを企画する。 2年 5月に上級学校見学会、2月に進路ガイダンスを実施する。 1年 2月に進路職業ガイダンスを実施する。	A	
生徒の希望進路実現をサポートする活動を企画、運営する。	その他、HR等で進路講話を行う。	B		
大学入試制度改革に伴うe-ポートフォリオの運用方法を確立していく。	他校の先進事例を把握し、適切な時期に活動を振り返る時間を確保する。(1学年) 他の先生方からも、さらに良い運用方法や事例について意見を募る。		B	

生徒指導部	1. 基本的生活習慣の育成 ・正しい制服の着用および容姿を整えさせる ・正しい言葉遣い、挨拶の徹底化 ・正しい学習態度を身につける	①学年主任及び教員による立哨指導での注意喚起 ②定期的な校内・校外巡視などによる指導 ③礼法指導及び授業の開始・終了時の挨拶による指導 ④制服セミナーによる制服着用の注意と指導をおこなう ⑤各教員が廊下などでの乱れた服装の生徒の指導	A B C A C	B	常勤・非常勤の先生方とも校内でだらしない生徒への声かけをしている場面をあまり見かけない。次年度部長にはこの点を先生方に徹底させてもらいたい。また部長・副部長などが月に1回くらいずつ交差点付近での立哨を実施した方がよいと思われるが、若い部長でないといは
	2. 情報モラルの育成 ・SNS関連のトラブルの発生を防止する	①情報担当教諭との連携をとり、情報の授業が中心となるが、そればかりではなく関連する授業すべてを通して情報モラル指導をおこなう ②茨城県メディア教育指導員・警察などによる講話指導等を通して注意を呼びかける（危機感の育成を図る） ③HR、礼法さらにはさまざまな活動を通して、コミュニケーション能力と他人への思い遣りの心の育成を図る	B B C		生徒指導部からの①・③についてのアクションが少なかったように感じられる。これを次年度どのような形で行なっていくかが課題となろう。次年度の部長に期待したい。
	3. 教員相互の連携を図り指導にあたる ・学年間の連携にとどまらず、教員相互の密な関係を構築することにより	連携を図るため、情報の共有化をはかる	B		学年内での情報共有は十分図られていると思われるが、学年間の情報の共有のために生徒指導会議以外にも何か実施する
メディア統括部	入試広報部・父母の会事務局・同窓会事務局と連携し、校内情報を在校生、保護者、中学生、地域、同窓生等に広く伝え、学校の評価向上に繋げる。 入試広報部・特別活動部と連携しながら戦略的に学校のイメージをつくり、受験者および入学者を増やす。	高校webサイト内の掲載内容を充実させる。	A	A	本校webサイトの情報を、ほぼ最新に変更することができた。ブログは、平日はほぼ毎日更新できているので、今後も継続していく。今年度は工事の関係で懸垂幕を掲示できない期間もあったが、年間を通して6回の掲示ができた。今後も継続していく。本校webページでの最新情報の発信とともに、他のメディアを使った情報発信を、臨機応変に行うことが今後の課題である。
		ToSay!ブログの更新を週4回以上行う。	A		
		体育館壁面の懸垂幕を年間3回更新する。また、道路沿いの横型懸垂幕を活用し、年間を通して常に掲示できるようにする。	B		
図書館部	(1) 図書室を積極的に利用させ、読書の習慣を身につけさせる。	・貸出総数維持・向上のため、利用しやすい図書館運営を行う。 ・年間を通して館内の衛生管理に努める。 ・各教科や校務分掌等への協力を要請し、授業や課外活動での利用を促す。 ・職員・生徒向けの新刊案内を定期的に発行し、利用促進を促す。 ・進路選択に役立つ図書館をめざす。	A	A	・年間計画に基づき、円滑な図書館運営ができた。「進路指導に役立つ学校図書館」の充実のため、学習指導部・進路指導部・各教科との連携を強化したことで、生徒や教員の求める資料提供ができた。 ・生徒図書委員会の活動も計画通りに実行できた。委員生徒同士の学年を超えたコミュニケーションが取れており、各作業班の生徒が自ら考えて仕事の内容の幅を広げていくことができるようになった。 ・蔵書管理システムの本格稼働には至らなかった。計画廃棄と新書の受入業務、レファレンス業務の繁忙が原因と思われる。稼働に向けたバーコード貼付作業には時間を要するが、次年度中に稼働させたい。
	(2) 生徒図書委員会の運営を充実・発展させる。	・校外における生徒図書委員研修会や公的機関主催の研修会へ参加させる。 ・司書研修会・教員対象の研修会に参加し、学校図書館の運営に役立つ。 ・図書費を有効活用できるよう、選書検討会議を毎月実施する。 ・他校生徒や県立図書館職員との交歓を通し、活動の幅を広げる。 ・定期的な読書会やビブリオバトルなど生徒向けのイベントを開催する。	A		
	(3) 蔵書管理システムの移行を開始し、円滑に運営する。	・蔵書管理システムの導入作業を進める。 ・5カ年廃棄計画に続き、定期廃棄と看護図書室の蔵書廃棄に移行する。	B		
1学年	1 基本的生活習慣を身につけさせ、規律ある生活をさせる。 ・安易な欠席、遅刻、早退をなくさせ、年間5回以上の遅刻者数を10名以下にする。	・授業の開始・終了時には服装を整え、息を合わせて礼ができるよう指導を徹底する。 ・教室の外ですれ違った際、挨拶（会釈）ができるよう指導する。 ・相手の人格や立場を尊重し、その場にふさわしい言葉遣いができるよう指導する。 ・身の回りの私物をきちんと管理・整頓させ、学習環境の美化に努めさせる。 ・遅刻カードを活用し、各自の生活改善に役立たせる。	B	B	・大部分の生徒が規律ある生活を送ることができた。一部に制服を正しく着用せず注意を受ける者もいたが、校内で制服をひどく着崩す者はいなかった。校外でも、正しい服装でいられるようにすることが課題である。 ・年間5回以上遅刻した生徒が10名おり、なんとか数値目標を達成することができた。体調不良、寝坊等の遅刻が多く、時間を守る意識をさらに浸透させることが課題である。 ・不登校傾向の生徒が例年になく多くて、長欠の対応に追われた。教育相談との連携を密にしながら対応したが、年間13名（内1名は友人関係）の進路変更者が出てしまった。心因的な問題を抱える生徒の対応が今後の課題である。 ・進路ガイダンスやインターンシップが自分の将来を考えるきっかけとなった。上級学校の見学を行う者もおり、進路に対する意識は比較的高めることができた。
	2 基礎学力を向上させるとともに、目標をもった生活をさせる。 ・スタディサポートのGTZで、Dランクに位置する生徒を50%以上減らす。 ・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を、学年人数40%（約80名）以上にする。 ・各種検定試験の受験を促し、漢検・英検・数検・秘書検定3級資格取得者を学年人数の40%（約80名）を目指す。	・授業に真剣に取り組ませ、予習復習の学習習慣を定着させる。 ・国語テスト、英単語テストの課題に毎日取り組み、家庭学習の習慣及び基礎学力の向上を図る。 ・上級学校の見学や各種ガイダンスへ参加し、進路意識を高めさせる。 ・インターンシップへの参加を通して、進路に対する適性を確認させる。 ・スタディサポートを活用して、生活状況や学習状況を振り返り、自身の将来像を描かせる。	B		
1学年	1 基本的生活習慣を身につけさせ、中堅学年としての自覚と責任を育てる。 ○学校生活・社会生活における規律の遵守、健康の管理と維持、時間の遵守と挨拶の励行 ○身だしなみを整える、家庭の中での役割を ○安易な欠席・遅刻・早退をなくすることを基本課題として取り組み、年間5回以上の遅刻者を10名以下にする。 ・HANDBOOKを活用した時間管理を通して学習時間を確保させ、成績向上につなげる。	・服装・髪型等については、立哨や各ホームルームで継続的に指導を行い、学年集会等で確認をする。 ・欠席・遅刻・早退が多い者は、保護者と連絡を取り合い、個別指導をする。 ・教科担任と連絡を密にとり、SHRや授業等で生徒の変化（言動、服装など）を見逃さないようにする。 ・家庭における自己の役割を決め、実践する。	A	A	・服装や髪型を含めた生活指導は、担任の先生を中心に毎日丁寧な指導が行われた。注意されたときには素直に正すも、日常生活への反映および習慣化には至らなかった。今後も継続的な指導が必要である。 ・遅刻や欠席者の総数は1年次よりも増加してしまっただが、下半期以降に進路決定を意識し出したことで、生徒の意識にも変化が見られるようになった。 ・各クラス担任が中心となり、家庭との連絡を密に行うことができた。保護者にもこちらの意図がよく
	2 基礎学力を向上させるとともに、目標をもった生活をさせる。 ・スタディサポートのGTZで、Dランクに位置する生徒を50%以上減らす。 ・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を、学年人数40%（約80名）以上にする。 ・各種検定試験の受験を促し、漢検・英検・数検・秘書検定3級資格取得者を学年人数の40%（約80名）を目指す。	・授業に真剣に取り組ませ、予習復習の学習習慣を定着させる。 ・国語テスト、英単語テストの課題に毎日取り組み、家庭学習の習慣及び基礎学力の向上を図る。 ・上級学校の見学や各種ガイダンスへ参加し、進路意識を高めさせる。 ・インターンシップへの参加を通して、進路に対する適性を確認させる。 ・スタディサポートを活用して、生活状況や学習状況を振り返り、自身の将来像を描かせる。	B		

2学年	<p>2. 主体的学習態度の育成と基礎学力の向上を図る。</p> <p>○家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底</p> <p>○各種検定試験や校外模擬試験などへの積極的参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英単語テスト、国語テストの各成績優秀者数を学年人数の40%をめざす。 ・年間の各種検定試験3級以上の資格取得者を学年人数の40%をめざす。 ・新聞を用いた学習を行い、進路への関心を高め、文章力の向上をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週ごとに家庭学習の予定を立てさせ、起床と就寝時刻の記録を通して時間管理の重要性を意識させる。また、新聞記事を用いた課題を出し、書かせた感想などを学年だよりなどに公開するなどして、文章力向上のモチベーション維持をはかりながら学習させる。 ・学習支援センターの活用を促し、不得意教科の克服を図る。 ・進路説明会、進路ガイダンス、上級学校の見学会への積極的参加を促し、面接指導を通して進路意識を高める。 ・各種検定試験や校外模擬試験の受験を促し、準備対策をふまけて合格率を高める。 	B	A	<p>1年次に習慣づけられた「手帳の活用と時間管理」の継続と、進路学習への糸口としての「新聞活用」を掲げたが、手帳はクラス担任だけが担当したことで繁忙のため継続することができず、また、新聞活用はさらなる業務の追加を理由に着手することができないまま終了するなど、学年としての生徒への働きかけが希薄であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターの利用者は試験前に限られており、日常的な利用はわずかな生徒に限られていた。 ・各種検定試験に向けて計画的に学習し、受検する者も多く、月例の国語・英単語テストへの熱心な取り組みも見られた。しかし、学習を開始する時期が遅れたり、理解を得られなかったまま繰り返して書く学習など、2年次最大行事の研修旅行において、概ね規則と時間を守り、協力して行動することができた。生徒と教員間のコミュニケーションが取れており、生徒達も理解し、納得して行動できたと思う。 ・文化祭や3年生を送る会では、生徒一人ひとりに役割を持たせ、達成感を味わわせることができた。
	<p>3 学校行事や部活動、ボランティア活動への積極的参加を促し、連帯感の高揚を図るとともに、一人ひとりに達成感を味わわせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の活動のねらいを意識させ、一人ひとりに役割を持たせる。 ・SHRや終礼、集会等で聞く態度を指導し、他者の考えを積極的に受け入れることができるようにさせる。 ・集団の中でのルール遵守を徹底させ、我慢の大切さを身につけさせる。 ・一つのことを学年全員で協力して成し遂げる。 	A		
3学年	<p>1 学校行事やさまざまな活動を通し、最高学年としての自覚と責任を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツフェスティバル・文化祭などの学校行事に全員で参加し、それぞれに役割を持って取り組ませることで連帯感や達成感を体得させる。 ・生徒会、部活動、委員会活動などを通し、上に立つ者としてその自覚と責任感を養わせる。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな行事に、HR委員や各係の責任者のもとで、各々の生徒が役割を持ち活動することができた。役割の元に活動することにより、それぞれの生徒に積極性、責任感が生まれ、その結果、実りある学習へつなげることができたと思う。 ・基本的生活習慣の徹底に力を入れてきたつもりであるが、3年間かけてもなかなかうまくはいかなかった。遅刻5回以上の生が19名と、昨年よりは数を減らしたものの目標には届かず、指導の方法を考慮しなければならない。生徒の心を育てるにはどのような手立てがあるのかを学ばなければならない。 ・3年間の集大成として進路の決定があるが、進路未決定者5名。進路に関して考え方の未熟さのある生徒たちであったが、一層の進路指導の徹底を図らなければならない。大学短大の進学率は目標の50%を超えた。家政科からの大学進学者の数の増えたこともプラスになっている。今後もこの状態が続いて欲しい。学習習慣では、日々の学習の定着していない生徒も多く、早くから将来像を描き、そのためには何が必要かを見つけ、実行する力をつけたかった。
	<p>2 集団生活の中で規律ある態度を養い、社会で通用する人間性を育む。</p> <p>(挨拶をする、言葉遣いを丁寧にする、時間を守る、整理整頓に気を配るなど、当たり前なことを身につけさせる。中でも、遅刻に関しては年間5回以上の者を10名以内に作る。)</p> <p>(制服を正しく着用し、身だしなみを整える。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の周知徹底を図り、遵守できない者には個別に面談を行う。 ・個人面談を活用して生徒一人ひとりの生活状態を把握し、規則正しい生活をするための助言をする。 ・基本的生活習慣や態度を身につけることの重要性を、SHRや合同HR、集会など機会ある毎に伝える。 ・欠席、遅刻の多い生徒や生活の乱れが目立つ生徒には保護者に連絡をとりその対応をする。 	B		
	<p>3 学力の向上をはかり、進路決定を実現させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタディーサポートテストのGTZのDゾーンからCゾーンへの底上げを図る。 ・各校内一斉テストの成績優秀者数70名を目指す。 ・進路決定率100%、大学短大進学率を50%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に毎日取り組ませ、基礎学力の向上と家庭学習の徹底をはかる。 ・生徒の進路希望を把握するために、少なくとも各学期1回の個人面談を行う。 ・推薦・AO入試や就職試験の面接対策として、面接練習を学年の教員全員で行う。 ・進路指導部と連携し進路に関する最新情報の入手に努め、生徒に情報提供する。 ・進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の向上を図 	B		
国語	<p>基礎的な学力を充実させ、表現力・理解力を養わせる。</p>	<p>授業を通して、読む・書く・聞く・話すの学習活動を実践する。</p>	B	B	<p>語彙力をつけるために国語テストを実施し、宿題にしたりなどして取り組ませてきたが、機械的に書き、提出することで満足感を覚える生徒が多かった。自学自習を身につけさせたい。成績優良者(平均80点以上)3年生64名、2年生41名、1年生71名である。表現力・理解力を養わせるという点に於いては、学習活動が不足していた。今後は教科内の研修を充実させて、教科指導の工夫を計っていきたい。</p>
	<p>生徒の学力にあった系統的な指導をする。</p>	<p>学年ごとの指導内容を精査する。また、学習課題ノートを活用して単元ごとの内容の理解を把握する。</p>	A		
	<p>進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して国語力の向上を図る。</p>	<p>国語テスト等の単元ごとの課題提出、また小テストの実施を通して、自学自習を習慣化する。</p>	B		
地歴公民	<p>時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。</p>	<p>ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。</p>	A	A	<p>1. 観点別評価の導入が学習意欲の向上につながるよう、工夫が必要である。</p> <p>2. 次年度に向け、iPadの効果的な利用法を検討する必要がある。</p>
	<p>政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。</p>	<p>ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。</p>	A		
数学	<p>学習習慣を定着させる。</p>	<p>1年生の初期指導における学習方法を継続する。課題を与え、その提出を徹底させる。定期試験の生成が不十分な生徒は定期的に学習支援センターを利用するように促す。</p>	B	B	<p>課題、小テストを改善していく。学習支援センターの利用を促す。</p>
	<p>基礎学力の向上を図る。</p>	<p>1年普通科は習熟度別でグループの学力に合わせた授業を行う。定期試験前の小テストの学習や定期試験後の課題の提出を徹底させる。また学習の理解度を把握し、個々に応じて指導を行う。</p>	A		
理科	<p>論理的思考力を向上させ、科学的な興味関心を高めるとともに、実験を通して理解を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎、または章毎に生徒実験を実施し、実験後は必ずレポートを提出させる。 ・日常生活で利用されているものを教材として多く取り上げ、必要に応じて演示実験やICTを活用する。 	B	A	<p>十分な実験を行うことはできなかったが、実験レポートは必ず課し、論理的思考が育成できるように内容について工夫した。シラバスに沿って予定通り教科書の内容については終了でき、必要に応じて試験前などを中心に個別指導も行うことができた。演示実験は各先生方で積極的に行った。教室のインターネット環境が改善し、各教員</p>
	<p>シラバスに沿って予定通りに教科書の内容を指導し、問題演習を通し、基礎的知識の定着を図る。</p>	<p>必要に応じて問題演習等の宿題を課し、定期試験の他に、小テストなどを行う。また、必要に応じて個別指導を行う。</p>	A		

保健体育	運動能力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わう。また体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身に付けさせ、社会生活における健康、安全に理解を深め自らに健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身に付けさせる。	個々の運動能力に合わせて到達機能を設定し、全員がクリア出来るように指導する。 種目の選択とともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。 健康で安全な生活習慣を確立させる。	B B	B	縄跳びなどは合格する人数が増えてきているが、合格した者にさらに上のレベルを目指させることが課題である。また、運動能力が低い生徒にどうアプローチするか？
芸術	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	音楽では鑑賞に加えて楽典や声楽のテストを実施する。美術・書道では基礎的な表現技法を習得させ、鑑賞能力を養うことで創作活動に取り組みさせる。以上の活動を通して表現力と鑑賞力の向上をめざす。 文化祭などの学校行事における発表や、校外の展覧会への出品を通して積極的に表現活動へ挑戦させる。	A B	A	・音楽、美術、書道ともに定期テストに代わる授業内小テストや制作物の提出、取り組みの姿勢などを採点し、積極的な活動を促した。生徒は表現活動に意欲的に取り組んでおり、文化祭での発表や茨女国文への出品にも学習の成果が見られた。次年度は鑑賞分野を充実させ、さらなる感性伸長を課題とする。
外国語	ライティング力を中心に英語表現力向上を図る 基礎力の充実を目的に語彙力の向上を図る 英語による授業展開方法とタブレット端末の活用方法の研究開発をする。	日記活動による「書くこと」の継続的指導をする。 英単語テストを実施する。 英語で展開する英語授業の実践とタブレット端末の活用による学力と学習態度の変化の観察をする。	B B B	B	1.年間を通して、学科として協力して指導ができた。評定にもきちんと反映できている。今後、各学力診断テストの結果につながるように継続して指導していく必要がある。 2. 英語での指導はクラスの状況により環境が大きく異なり、すべて同じにはできていない。指導方法の工夫は必要である。 3. iPadを用いた英語の授業については、辞書機能の利用を中心にする。さまざまな付属機能があるため、その利用を具体化する。また、1年生普通科が行っている日記活動を来年度、iPadを利用した日記活動に移行することを検討中である。
家庭	各学年、選択コースにおいて、目標とする技術検定試験を100%合格とする。 茨城県家庭部会事業に積極的に参加し、本校の活動をアピールするとともに、各事業を成功させる。(いばらきものづくり教育フェア、「県政広報コーナー」への展示) 家庭クラブ活動の内容を周知徹底し、活性化させる。 家庭科関連のコンクール・コンテストで10部門の入賞をする。	検定の課題と評価について教員間で共有し、研鑽を積む。実習については、学習環境を整えるとともに、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。 それぞれの課題を把握し、生徒の多様な能力・適正、興味・関心などに応じて楽しく学べる学習環境を作る。家庭クラブの年間計画に基づき、生徒へ助言指導を行う。 生徒自身の課題において、計画・実践・評価・改善の各プロセスにおける指導助言を十分に行う。	A A B	B	技術検定については、目標は達成できているが、個別指導が多く、指導上の工夫が必要で今後の課題となる。 本校の活動は、積極的に家庭部会事業に参加し、外部へ発信している。家庭クラブの活動を生徒へ周知し、今後活性化させていく。家庭科関連のコンクール・コンテストには、積極的に応募しているが、入賞は4部門だったので、個別指導をいし入賞数が増えるように教員も研鑽を積んでいく。
情報	自分に必要な情報を正しく読み取り、発信する能力を育てるとともに、適切なコンピュータリテラシーを身につけ、情報伝達の方法と情報発信の危険性について理解する。	学習支援クラウドサービス「Classi」を利用してデータを蓄積する。 インターネット/私のおすすめ等のプレゼンテーションを作成し、ひとり1回以上は発表する機会をもつ。 SNSなどネットトラブルに巻き込まれないための知識が身に付くように、実技を交えた情報モラル指導を徹底する。	A C A	A	Classiへのログイン、内容確認は、ある程度習慣づけられてきたと感じる。反面、配信頻度が少ないため、確認してもすぐに閉じてしまう。関係教員の配信頻度を高めていくことが今後の課題である。 総務省や法務省が作成したYouTube動画を教材にしなが、SNSを利用している人の誰にでも被害に遭う可能性があることを認識させる授業ができた。反面、他人事のような意識でいる生徒がまだ多いので、自身の問題として意識させることが今後の課題である。
看護	基礎的な看護技術の定着を目指す。 (放課後の実習室利用率を60%以上に維持する。また、主要基礎技術の確認試験の合格率を100%とする)	教員による放課後実技指導を徹底する。 実習室使用許可願の管理・集計をする。 主要基礎技術(ベッドメイキング・全身清拭・足浴・バイタルサイン測定)の確認試験および再試験を実施する。	A	A	実習室の利用率は72.4%であり昨年を上回る。確認試験は100%合格と看護技術の習得への生徒の意識は向上していると思われる。しかし教員の関わりが十分でない。今後は来年度からのipadの導入に伴い効果的な活用方法を検討していきたい。
礼法	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑にできる生徒を育成する。	礼法研修に積極的に参加し、家庭科教員の意識向上をはかる。学校生活の基本である始業の礼、終業の礼の意味を理解させる。また、お客様や先生方に対する挨拶など、日常生活での「礼」を徹底させる。	B	B	夏休みの研修に参加し、家庭科教員の意識は上がった。しかし、まだ指導力がまだ足りない部分があるので、今後も定期的に研修を行いたい。また、家庭科研修で指導方法などについても協議し、さらに授業内容について
キャリアデザイン	キャリアII B (3年) のプログラムを実践・修正し、3年生のプログラムを完成させる。 キャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に表現できるよう、サポートを徹底する。	・外部団体との打ち合わせは時間的余裕を持って、綿密に行う。 ・キャリアデザイン科内で情報共有を十分に行い、プログラムの完成に向けて協力する。 ・2年生も含めて、次年度に向けてのプログラム修正検討を早期に行う。 ・推薦、AO入試に向けて、進路指導部と連携し、教科全員でフォローを行う。	A B	A	キャリアデザインII Bのプログラムは完成し、生徒たちの振り返りからも1期制として十分な学習活動ができたと自負する。次年度以降は、改善を図りながら、地域との連携、メディアへの露出も増やしたい。一方で、キャリアデザインでの学習内容を、志願理由書作成指導、面接指導などに活用しきれていない面がある。学校全体での学習内容の共有について工夫が必要である。